

諏訪小だより

令和4年4月28日
5月号
多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介

「きっかけ」を求めて

校長 齋藤幸之介

少し前のことです。

知人を介してある漫画家と会いました。Mさんとさせていただきます。最初Mさんは漫画家であるとはおっしゃいませんでしたが、話が進むうちに「実は」と御自身の仕事をお話になりました。このお話をする際に、名刺代わりに、ということになるのでしょうか、1冊の漫画をくださいました。

漫画を描く「きっかけ」

食に関するこの漫画はとても興味深いものでした。パスタ職人の話でしたが、単においしく作るだけでなく、パスタの起源に迫ったり、イタリア人が大切にしているパスタの条件を明らかにしたりする内容は奥が深く、思わず感嘆の声を上げそうになる場面がいくつもありました。

話を進めるうちに、Mさんから興味深いことを伺いました。それは、この漫画を描かれる「きっかけ」です。

Mさんは、幼少の頃にはあまり外食をされなかったのだそうですが、中学校に入学する頃、たまたま焼き肉屋に行かれました。見たこともない室内や焼き肉のにおいから始まり、肉が出される場面、自分たちで焼いてタレを付けて食べる場面、とどれもが新鮮であった、とおっしゃいました。

そして、このことをきっかけに、食についての興味が沸き上がってきたのだそうです。私が評価をするのも憚られますが、単においしい、や上手な作り方、というだけでなく、多岐に亘る漫画の内容は、一朝一夕ではなし得ない追求があるから、と感激をしました。同時に、生きていく際には様々なきっかけがあることに改めて気付かされました。

教育活動における「きっかけ」

きっかけは、契機、とも言われ、次に飛躍するための手がかり、という意味があります。例えば、跳び箱を跳べるようになったとき、一層強く踏み切ったり、今までより跳び箱の前の方に手を着いたり、着いた手で跳

び箱を押したりしています。このとき、一つ、あるいは複数の技能を身に付けるために、友達がアドバイスしたり、教師が助言をしたり、タブレット端末で撮影した自身の動きを観て改善するポイントを明らかにしたりする場面があります。これらはまさしくきっかけであり、これらをうまくつかむことができたときに技ができるようになる、つまり飛躍することになるわけです。

必要ないくつかの技能のポイントを短時間で理解をして身に付けられれば飛躍はすぐにやってきます。しかし、実はこのことはそう簡単ではなく、なかなか変化がやってこない状態が続くことも少なくありません。

これを解消するために、私共は子供たち一人一人を注意深く観察して様々な働きかけ、つまり契機を与える努力をします。それでも、変化が訪れない場合もありますが、時に落ち込みつつも改善を図りながら次を狙っていきます。高い技能をもつ教師が「職人」に例えられますが、これも現在の学校教育の追い求める一つの姿かもしれません。

校長室からは運動場が見渡せます。体育科の学習の様子を観ることができるこの部屋はとても有難い空間です。

5年生がリレーの学習をしています。子供たちが、バトンを渡す際にスピードのロスを少なくするために試行錯誤しながら練習しています。また、レースの際には「今のスタートはいいタイミング!」「確実に渡せたね!」といった教師の助言も聞こえてきます。

このように、きっかけを求めながら日々の教育活動が様々な場面で行われています。そして、わずかかかもしれないけれど、Mさんのように大きく飛躍することにも期待しながら取り組んでいきたいと思っています。<参考>

古川清行・梶井貢他編著

「わくわくどきどきチャレンジ社会科6年」
東洋館出版社 2000年